

## 1 《（幼児・小学校低学年）「アンリー・デュナン」》

幼児・小学校低学年向き

読み物資料として、また、カットなどを利用した「紙芝居」などにして児童に提示すれば、効果もさらに上がると思います。

### 赤十字の父アンリー・デュナン



みなさんは、アンリー・デュナンを知っていますか。赤十字は、アンリー・デュナンのうったえに、大勢のひとが協力してできました。

だから、アンリー・デュナンは赤十字の父とよばれ、第1回ノーベル平和賞を受賞しました。

それでは、アンリー・デュナンと赤十字の歴史をたどってみましょう。

#### ☆ アンリー・デュナンの誕生

アンリー・デュナンは1828年5月8日、スイスのジュネーブで生まれました。

デュナンは、子どものころ両親に連れられて、貧しい人に食べ物を届けたり、病人のお見舞いに行ったりして、多くの人がいろいろな形で助けを求めていることを学びながら育ちました。



#### ☆ 大人になった「アンリー・デュナン」は、「ソルフェリーノの戦い」に出会う

デュナンは、仕事で北イタリアを旅行中に、たいへんひさんな戦争に出会いました。

この戦いは1859年6月、イタリアの統一をめぐるオーストリア軍とフランス・サルジニア連合軍との間でおこった「ソルフェリーノの戦い」といわれるものです。

実に15時間も戦いが続き、40,000人をこえる兵士が亡くなり、傷つき倒れました。

この戦いにいきあわせたデュナンは、「みんな同じ人間どうし」という合い言葉のもとに、ありったけの力をふりしぼって、町の人々と一緒に、敵・味方の別なく傷ついた兵士を助けました。



## ☆ アンリー・デュナン 「ソルフェリーノの思い出」を出版

戦いが終わり、ジュネーブに帰ったデュナンにとって、ソルフェリーノでのことは忘れることができませんでした。

デュナンは、ソルフェリーノのことを「ソルフェリーノの思い出」という本に書きました。

その中で、二つのことを訴えました。

- 戦場で負傷した兵士を敵・味方の区別なく助けるために各国に民間の団体をつくる。
- その団体が戦場で安全に活動できるように国際的なやくそくをする。

## ☆ アンリー・デュナンの考えを実現させるため、「五人委員会」が生まれる

世界中の多くの人々は、このアンリー・デュナンの考えに心を動かされました。

アンリー・デュナンの考えを実現するために、ジュネーブの人たちは、5人の人たちを選びました。

5人の人が集まって「五人委員会」ができました。これが、今の「赤十字国際委員会」です。

## ☆ 「赤十字の誕生」 —赤十字を支える「ジュネーブ条約」（平和条約）ができる

五人委員会は、何回も話し合いを続けました。

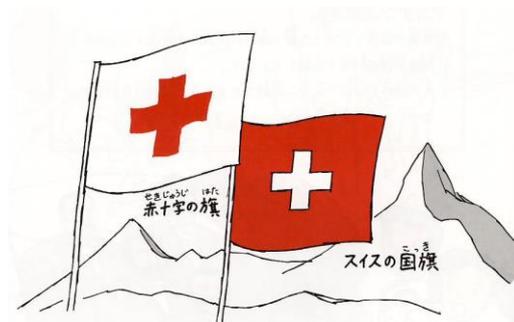
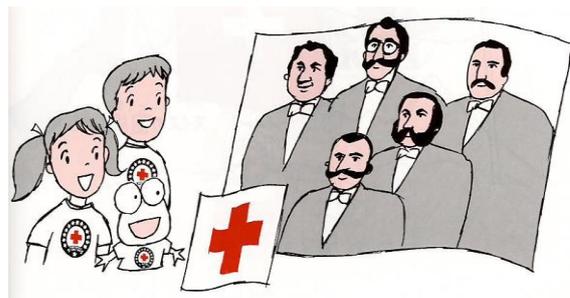
1863年10月に、ヨーロッパ各国からの代表者をジュネーブに呼びました。

そうして、戦場で敵・味方の区別なく手当すること、また、手当を行う人を攻撃しないこと、という

「ジュネーブ条約（赤十字）条約」を作りました。

このとき、この団体を表すしるしとして、スイスの国旗を逆にした

「白地に赤十字」が決まりました。



## ☆ その後のアンリー・デュナン



デュナンは、赤十字を作ることに一生懸命になり、自分の会社の経営に失敗してしまいました。年がたち 1895 年になり、一人の新聞記者がスイスの、ハイデンにある病院で 67 歳のデュナンに出会い「この人が、赤十字の父、アンリー・デュナンだ。」と発表しました。

世界中の人々は、デュナンがハイデンで世の中から忘れられて生活を送っていること知り、とてもおどろきました。

その後、1901 年に最初のノーベル平和賞がデュナンに贈られました。デュナンは、その賞金の多くを赤十字に寄付し、1910 年 10 月 30 日、ハイデンの病院で「みんな人間どうし」の気持ちを持ち続けたまま、82 年の生涯をとじました。

## 指導者の先生方へ

### 青少年赤十字の始まり

国際的に青少年赤十字が始まったのは、国際赤十字・赤新月社連盟の第一回総会（1920 年＝大正 9 年）において、赤十字社の事業として青少年の養成を決議してからで、日本では、1922 年（大正 11 年）に最初の青少年赤十字が発足しました。

青少年赤十字は、幼稚園・保育所、小・中・高等学校の中に設置され、先生や保母さんを指導者として、学校教育・幼児教育の中で進められております。

### 青少年赤十字の目的

青少年赤十字は、将来を担う青少年が赤十字を正しく理解し、進んで赤十字運動に参加してもらい、青少年の一人ひとりが世界の平和と人類の福祉に貢献できるように、日常生活の中で、望ましい人格と精神を自らつくりあげることが目的としています。

PowerPoint 幼児のための青少年赤十字を参照ください。